

磁器の誕生

— 原始瓷器 —



第1期:平成12年10月7日(土)～10月25日(水)

第2期:12月16日(土)～平成13年2月12日(月・祝日)

山口県立萩美術館・浦上記念館

休館日/月曜日(祝日の場合は開館・その翌日も開館)、年末年始(12月26日～1月2日)

開館時間/9:00～17:00(入場は16:30まで)

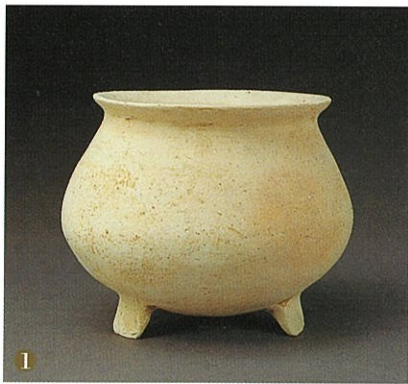
主催/山口県立萩美術館・浦上記念館、山東省文化庁、毎日新聞社、TYSテレビ山口 後援/萩市
観覧料/個人＝一般650円・学生500円 団体＝一般550円・学生400円

※18歳以下の方及び高等学校、盲・聾・養護学校に在学する生徒は無料。

磁器の誕生 —原始瓷器—

中国は、世界で最も早く磁器を作り出した国で、早くも紀元前14～15世紀の商代中期頃には1200度以上の高温で焼かれ、施釉された一種の磁器が出現しました。それらは中国で、**原始瓷器**（日本で原始磁器）と呼ばれています。また、これらのやきものの釉が、少量の鉄分の発色による青磁系の釉であることから、**原始青瓷**（日本で原始青磁）とも呼ばれます。

1万年を超えるやきものの歴史は、土器から陶器、そして磁器への発展過程としてとらえることができます。一般的な磁器の条件として、原料に酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）の含有量が多く、酸化第二鉄（ Fe_2O_3 ）が少ないカオリン土を使用し、素地が白色を呈すること、



摄氏1200度以上の高温で焼成され、胎土は堅緻に焼締まり、不透水性をもつこと、表面にガラス質の釉が施され、胎土にしっかりと定着していること、などがあげられます。この原始瓷器の出現は、やがて青磁へと転換し、黒磁や白磁へと発展、三彩や青花、五彩へと展開する、その後の中国陶磁の歴史を方向付けた画期的なできごとでもあります。

近年、原始瓷器と青銅器、印文硬陶、灰陶、黒陶などが共存する良好な遺跡として山東省滕州市の前掌大遺跡が注目されています。この展覧会では、一級文物9点を含む前掌大商周墓の一括資料や関連資料76点を展示し、青磁の源流であり、すべての中国陶磁のルーツともいえる原始瓷器出現の位置づけを、墓制との関わりを通じてさぐり、その後の陶磁史に及ぼす大きな役割を考察します。



写真① 白陶鼎〈一級文物〉

大汶口文化 高8cm

写真② 白陶罍

商時代 口径15.1cm・高26.3cm

写真③ 原始瓷豆〈一級文物〉

商時代 口径16.2cm・高8.6cm

写真④ 原始瓷罍

商時代 口径18cm・高13cm

写真⑤ 原始瓷罐〈一級文物〉

戦国時代 口径18cm・高21.5cm

写真⑥ 青銅提梁缶〈一級文物〉

商時代 口径13.3cm・高31.3cm



関連行事

記念講演会①:

「山東省における原始瓷器の出現と研究」

日時/10月7日(土) 10:30~12:00

講師/梁 中合

(中国社会科学院考古研究所副研究员)

記念講演会②:

「磁器の誕生」

日時/10月21日(土) 14:00~15:30

講師/弓場 紀知(出光美術館学芸課長)

*当館講座室にて開催。いずれも聴講無料



山口県立萩美術館・浦上記念館
HAGI URAGAMI MUSEUM

〒758-0074 山口県萩市平安古586-1

TEL0838-24-2400/FAX0838-24-2401

http://www.hum.pref.yamaguchi.jp

JR東萩駅=タクシー10分/徒歩30分

JR小郡駅=バス70分(萩バスセンター下車徒歩15分)

石見空港(島根県益田市)=バス75分(萩バスセンター下車徒歩15分)

中国自動車道=小郡I.C. 美祿I.C.から各50分